

**東武アーバンパークライン
(東武野田線)の複線化について**



蛭間 靖造
議員

東武鉄道は、沿線価値の向上の一環として、東武伊勢崎線に「東武スカイツリーライン」、東武野田線に「東武アーバンパークライン」の愛称を導入しました。また、本年4月30日には、持続的成長を目指すため「東武グループ中期経営計画2014～2016」を発表しました。中期経営計画の中で沿線の価値向上などの戦略を打ち出している今が、春日部以東の複線化を訴える時期と思います。そこで、次の2点について伺います。①「中期経営計画」の内容について、どのように認識しているか、②沿線全体の発展には「春日部駅から運河駅まで」の複線化が、必要不可欠だと思いますが、その展望と要望について伺います。

①東武グループ中期経営計画は、本市が引き続き県東部地域の拠点として発展してい

**市街化調整区域の
開発について**



会田 幸一
議員

内容には非常にプラスとなる内容であり、本市としても東武鉄道に対し積極的に協力していきたいと考えています。②春日部駅から運河駅までの複線化は、沿線地域の発展や地域振興に大きく寄与するものと考えていることから、昨年度に引き続き、東武伊勢崎線・野田線整備促進協議会などを通じて、東武鉄道に早期複線化を働き掛けていきます。

このほか

○新市立病院にホールボディカウンターの設置について

○ゲリラ豪雨に対する市内の冠水対策について

本市は昭和43年の都市計画法制定により、無秩序な市街化の防止と計画的な市街化の形成を図るため、昭和45年に市街化区域と市街化調整区域に区分されました。その後、平成12年に都市計画法が改正され、市街化調整区域であっても、開発許可要件を満たす

**全ての教室に
エアコン設置を**



卯月 武彦
議員

地球温暖化に伴い、夏休み前も後も猛暑が続く、教室の温度は40度にもなると聞いています。こうした中、県内でも普通教室にエアコンを設置する自治体が増え、設置率は48・9パーセントと、ほぼ半数の教室にエアコンが設置されています。本市では、東中学校以外に設置されています。直ちに全ての教室にエアコンを設置すべきです。本市では、老朽校舎の改修を行う長寿命化計画の中で検討するとしていますが、いつまで検討するのでしょうか、見通しについて伺います。

また、市長は普通教室のエアコン設置の必要性について認めるのでしょうか。

○学校教育部長

普通教室へのエアコン設置については、学校施設の長寿命化計画の中で検討し、計画的で予算的にも平準化した改修が必要と考えています。現



東中学校のエアコンが設置された教室

在関係部署と公共施設白書の策定に着手していますので、公共施設の現状を明らかにした上で、市の施設全体の方向性や計画を策定し、これを基に長寿命化計画の策定を行っていきます。

○市長

普通教室へのエアコン設置については、学校施設の長寿命化計画を策定し、総合的に検討していきます。

このほか

○福祉タクシー券、自動車燃料券の拡充を

○春日部女子高校北側の道路拡幅を

77歳の敬老祝金制度の復活・充実を



坂巻 勝則
議員

石川市長は昨年の市長選において「日本一いきいきと老後を過ごせる街」という公約を掲げ、3期目の当選を果たしました。しかし、敬老祝金贈呈事業は長寿記念事業に名前を変えて、88歳、100歳、105歳、110歳だけが対象となり、大幅な縮小となりました。特に77歳での贈呈が廃止されたため、100歳前では本市は88歳の一度しか贈呈されていません。これにより、贈呈対象者が大幅に減ってしまいました。



いきいきクラブでのレクリエーション

日本人の平均寿命は男性が79・9歳、女性86・4歳で世界有数の長寿国ですが、平均まで生きたのでは長寿祝金はもらえません。お年寄りに大変冷たい市政だと言わざるを得ません。近隣のほとんどの市で、70歳代から贈呈しています。蕨市、戸田市は、8回9回ときめ細かく、それぞれ20万円以上の贈呈です。本市

はたった1回で金額も2万円。県内他自治体と比べても非常に少ない対象年齢と金額です。「日本一いきいきと老後を過ごせる街」を目指すのであれば、せめて喜寿である77歳の長寿祝金は拡大・復活すべきだと思いますが、いかがですか。

○市長

総合振興計画後期基本計画の重点プロジェクトに位置付けた事業をバランス良く進めていきます。

このほか

- 豊春駅前通りの歩道整備
- フラワーヒル交差点に信号機設置

春日部市における火災予防対策について



鈴木 一利
議員

本市には、消防法令に違反する数件の施設があり、消防本部としても把握しているようです。最近では、消防法令の違反に対して、施設名の公表を行う制度を導入し、火災予防につなげている自治体もあります。消防法令に違反する施設に改善を促す通知を行い、一定期間が過ぎても改善されていない場合には、施設名を自治体ホームページなどに公表することです。

○消防長

これは、火災予防の大きな一助になるのではないかと考えます。この消防法令に違反する施設の公表制度導入について市の考えを伺います。

火安全に対する認識を高め、火災被害の軽減を図るとともに、建物関係者による防火安全体制の確立を促すものと認識しています。国からの通知では、政令指定都市の状況で踏まえつつ検討を進めるとあることから、公表制度の趣旨を鑑み、政令指定都市等の実施状況を参考に諸課題等を抽出し、調査研究を進めます。

このほか

- いじめ問題と不登校問題
- 防犯カメラによる防犯対策について
- 藤塚地区の側溝の整備対策について

浸水被害軽減対策について



木村 圭一
議員

国は、多発している水害の軽減策をさまざまな角度から講じています。本市においても近年起きてくるゲリラ豪雨等の被害対策に取り組んでいくことをよく承知しています。しかし、市民の声を伺うと、一日でも早い、一層の対策が望まれています。本年3月27

日には、国会で「雨水利用推進法」が成立しました。本市も治水対策事業と平行し、雨水を貯留活用する施設を事業所や公共施設に設置し、市内の浸水被害を抑制する必要があります。水は被害をもたらす場合もありますが、なくてはならない財産にもなります。雨水の有効活用を要望しますが、市の考えを伺います。

○建設部長

調整池等で貯留した雨水は、施設の機能目的上、次の降雨に備えて一定時間が経過した後には速やかに排水しています。これは、次の大雨までには空の状態にする必要があるからです。貯めた雨水を有効利用している市内の主な公共施設は、あしすと春日部や中央公民館、教育センター等があります。建設予定の新病院でも貯めた雨水をトイレ等の排水に活用する計画があります。

このほか

- 駅周辺のまちづくりについて
- 学童保育の利用拡大について
- 全職員によるホームページ情報発信について
- 災害時の要援護者への声かけ

**旧古隅田川のしゅんせつ、
清掃について**



武 幹也
議員

5月に下蛭田地区の住民の方々が「旧古隅田川のしゅんせつと清掃に関する要望書」を市に提出しました。旧古隅田川は、長年浚渫（しゅんせつ）が実施されてこなかったため、多くの土砂が堆積しています。これにより、雑草やアシが繁茂し、ごみや雑排水がたまる原因となっています。集中豪雨等のときには、雨水や河川の水が流れにくく、貯留効果も低下しているのが現状です。結果として排水口から河川の水が逆流し、居住地や道路に流れてきています。

近年発生する大雨等の影響もあり、浸水の被害を頻繁に受けることから、今後の対策の計画と考え方、今年度の予定を伺います。

○建設部長

今後とも適宜、現地調査を行い、治水対策上支障がある部分の土砂の撤去、アシ等の除草を行いながら適正な水路の

維持管理に努めます。また、地域の浸水被害の軽減については、下流にある1級河川である古隅田川の改修により、

流下能力を高めることが重要であり、県に早期改修を要望していきます。なお、今年度は河川内の除草時に流れの支障となっている部分の調査を行い、必要に応じて適宜しゅんせつ等を実施していきます。このほか

○包括的連携協定について
○民間企業への派遣人材育成研修について
○小中学校の「眼球運動」について

**武里団地から
市役所や市立病院に
春バスの運行を**



並木 敏恵
議員

本年4月の市議会議員選挙で武里団地の方から「市役所や市立病院に直通で行ける春バスを運行して欲しい」という声が強く寄せられました。

武里団地から春バスを運行する必要性は認識していますか。現在の春バスは、鉄道・バスなど運行されていない地域

を補完するというものですが、武里団地は市内で一番早く高齢化しているため、駅利用者

は激減しています。高齢化社会における春バスの役割は、買い物や通院などが高齢になっても自由に移動できるように、役割を見直す必要があります。第三次運行計画の策定に当たっては、春バスを使ってどこに行きたいか、市民ニーズをしっかりと把握し、ニーズに応えた運行を行うべきです。

先進自治体で採用している「デマンド方式」も視野に武里団地からの運行を求めます。

○都市整備部長
春バスは、地域公共交通のネットワークの補完を目的に運行しています。鉄道や路線バスが運行されていない地域で鉄道などへのアクセスを確保するもので、鉄道と路線バスに恵まれた武里団地への運行は考えていないところです。

アンケートなど住民ニーズの把握に努めていきますが、デマンド方式での運行をすることは考えていないところです。

このほか
○福祉総合窓口は相談者の苦難に寄り添った対応を
○医療・介護総合法（案）で春日部の介護はどうなるか

**通学路等、道路
施設の安全対策と
維持管理について**



水沼日出夫
議員

通学路上での子どもたちの交通事故はとても心配なことです。現状の通学路の安全確保では、交通指導員や地域見守り隊の協力が欠かせません。

北海道警察本部の小学生事故実態報告によると、小学1年生の男子が、6月の午後2時から4時までの下校時に、自宅近くで道路を横断中に最も多く事故に巻き込まれる傾向が顕著であるとされており、通学班の行動以外でも安全を確保する対策が必要です。

そこで、通学路の安全対策について、①実際の要望の概略と対応方法、②具体的な処置の手順と維持管理、③自治会等と学校との連携の3点を伺います。

○学務指導担当部長
平成25年度の要望件数は、全体で108件あり、横断歩道や信号機の設置等がありました。要望書の受け付けは、原則年1回ですが、道路環境

や周辺環境の変化により、随時受け付けています。学校側で点検した結果とPTAが点検した結果を学校において要望書として取りまとめ、自治会に承認を求めると3者間で連携を図っています。

○建設部長
市道の工事等では、速やかに現場を確認し、緊急性や危険度、費用対効果等を総合的に勘案し、実施しています。なお、昨年度は側溝の改修や橋の補修等を行っています。

このほか
○自然に親しめる水辺づくりについて



小学校付近のグリーンベルト

「元氣な学校づくり」について



石川 友和 議員

社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く問題が多様化する中、子どもたちが生き生きと学ぶ「元氣な学校づくり」の重要性は、日々増していると考えます。

そこで、「元氣な学校づくり」についてどのような取り組みをしているのでしょうか。そして、その結果、どのような成果が表れているのか伺います。

○学務指導担当部長

元氣な学校づくりに向けた主な取り組みと成果を挙げますと、特色ある学校づくりを推進するために、「春日部市特色ある教育推進委員会」を設置し、指導方法の工夫・改善を進めています。研究の成果を報告する発表会には、市内外から多くの参観者が訪れ、市内各学校において共有することができました。

また、豊かな心を育成するために各学校では道徳の時間

に保護者を招くなど、創意工夫をしながら取り組んでおり、農作業体験やボランティア活動等を通して児童生徒の豊かな心の醸成とともに、地域とのつながりを深めています。

さらに、体力向上のために、「春日部市小中学校体力向上推進委員会」を組織し、課題解決のための研修や情報交換小中学校への啓発を行っています。その成果として、全国大会において走り高跳びで優勝、100メートル走で優勝する等の実績を収めています。

このほか

○ふるさと納税について



武里小学校の自主授業研究

子ども・子育て支援新制度について



岩谷 一弘 議員

国の推進する「子ども・子育て支援新制度」に対して本市は、どのように取り組んでいくのか、以下質問します。

- ①新制度に対する本市の対応と進捗について
- ②保育所待機児童の現況と対策について
- ③0・1歳児枠の増員について
- 子育て支援担当部長

①平成25年度には、子育て支援審議会を設置し、また、子ども・子育て支援のニーズに関するアンケート調査を実施しました。これに基づき、平成27年度から31年度までの5年間の保育の必要量を算出し、子ども・子育て支援事業計画を策定します。また、新制度施行に伴い、教育委員会の幼稚園業務を福祉部に移管し、幼保窓口の一元化を図りました。

②待機児童解消対策として、平成25年度には新設2カ所であり、待機児童数は毎

年着実に減少してきています。今後も保育の質が高い認可保育所や幼保連携型認定こども園を主体として待機児童解消を図っていきます。

③平成26年度には、武里地域及び庄和地域に3歳未満児の定員46人の民間認可保育所を2カ所設置する計画となっています。これにより、0歳、1歳児の定員56人の増員が図られ、平成27年度当初の4月には一層の待機児童の解消につながるものと考えています。

このほか

○シティセールスアクションプランについて

大落古利根川の都市・地域再生等利用区域指定について



栄 寛美 議員

国の「河川敷地占用許可準則」の一部改正により、民間事業者等による河川敷地の利用が可能となり、利用に当たっては河川管理者が「都市・地域再生等利用区域」を指定することとなりました。そこで、以下質問します。

- ①民間事業者等による営業活

動について
②今後の水辺空間の活用について

○建設部長

①今回、水辺空間の利用を計画している広場については、広場の構造上や広さから簡易な設置物、テント、パラソル、テーブルなどを置く地先利用型による営業を想定しています。また、イベント広場としては、プラスバンドの演奏やジャズデイのようなイベントなどを想定しています。船着き場としては、カヤックの乗船場のようなものを想定しています。

○環境経済部長

②昨年8月に新たなにぎわいづくりとして、春日部商工会議所青年部の主催による「夏の夕涼みフェスタin公園橋」が開催され、多くの来場者が訪れ、にぎわいを創出したところでした。

今年度においても、この事業は8月に、昨年以上に内容を充実させて開催をするつもりです。

このほか

○超高齢化に伴う諸問題について
○各種選挙における投票率の向上について